

教科名 美術 科

1 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○ノートや作図プリントの活用で各自のペースで復習や応用を促す。 ○教材、用具の基本的な扱いを丁寧に指導し、毎時間の課題を明確にする。まず基礎技能と技法の習得に重点を置く。 ○製作段階で生徒個々人の意欲や関心に応じた教材を選択できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術内外の環境比較を示し、ものの形や日常の中に美術が深く関わることを意識させる。 ○主体的に完成度の高い制作に取り組める個別指導と生徒同士の対話的なつながりを図る。 ○生徒個々人の発想が形になる喜びを味わえるように「見方・考え方」に寄り添う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業導入時の状況把握と方向付けを明確に示す。 ○発想を形にする上で計画を立てて、最後まで実際に遂行する経験をさせる。 ○集中力や工夫がいかにか結果に結びつか実感させる。 ○周りの作品と自身のやり方の違いや良さを味わい、客観性を育てていく。

2 生徒の変容の状況および成果

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○中学生となって「美術」を学ぶ心身のレディネスが充分発達していない生徒が少なからずいる。各々の集中力が見えてきている。 ○内面の成長発達が未熟である生徒と年齢相応かそれ以上のレベルの生徒が混在している中での指導内容の充実が図られた。 ○ノート提出者、未提出者がはっきりしてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能を修得する実技制作では、粘り強さが最後まで続く生徒と続かない生徒の差があり、完成度に出ていた。 ○実技宿題などノートを振り返り、各自の言葉でも意志がみられた。 ○丁寧さやこだわりが出て、全体の完成度まで遠のき、ペースダウンが気になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒間での対話や鑑賞では伸びやかに意見を出し合っている。 ○このへんでいいだろうと、完成を低く見積もり、手間暇の作業量にもつながっている。 ○不登校、別室登校生徒の対応は、できていない。 ○もう少し、こうしたいという意見、質問が制作中、各々出てきていた。

3 次年度に向けての課題

1年	2年	3年
<p>西中に入學してくる新入生の特長・個性に合わせて、興味関心意欲を最大限に引き出し、学習作業にしっかり集中させる方法を常に探り、向上させること。制作の楽しみを味わえるように実技指導する。作品完成の喜びを高い次元で味わうことができるようにお互いの表現に関心をもち、各々の捉え方・考え方を見られる姿勢を身に着けさせる。</p>	<p>授業時間数が2年生から減少するので、同じ感覚で授業に臨まれるとペース配分を誤ることになる。毎時間ごとの集中力を促すようにしたい。</p> <p>さまざまな制作段階で課題も多い生徒への個々の対応も同時にすすめる。</p> <p>主体的に学習に取り組みながら、自分の力を出していく。言葉で考えを整理したり、感じ方を深める。</p>	<p>最終学年での制作が、それぞれの「自己ベスト」となる、制作過程も含めて一生残る作品となるように計画的に毎回の授業を組み立てること。生徒一人一人の個性、特長がプラスの形で作品に表現されるように指導すること。制作面・鑑賞面で充実した心が養われるような指導を重ねていく。</p>